

8-4-1 統括技術委員会

1. 主な活動の記録

(1) 委員会の開催

- ・開催数：6回（偶数月）

令和6年4月26日、6月26日、8月29日、10月22日、12月24日、令和7年2月26日

(2) 統括技術委員会の横断的活動（主要議事）

- 7WG（①生産性向上WG、②維持管理対策WG、③業務体系WG、④公益活動WG、⑤業務研究発表会WG、⑥新しい生活様式の道路空間WG、⑦協調領域検討WG）及び3技術委員会（国土基盤技術委員会、交通基盤技術委員会、社会マネジメント技術委員会）の活動を実施した。
- BIM/CIMにおける「令和5年度原則適用」に関して、道路、橋梁、河川、ダム、砂防の5分野についてフォローアップアンケートを実施した。また、BIM/CIM適用業務の内、「橋梁編」「道路編」「河川構造物編」の3分野に着目し見積様式（案）を提案した。さらに、「BIM/CIM取扱要領」制定（3/12）に参画した。
- 令和6年3月定期点検要領の改定に対応した「道路橋メンテナンス技術講習」として、東京と大阪の同時開催で、専門講義（10/28～10/30）、現地実習（10/31）、達成度確認試験（11/1）を実施した。
- 東京大学 i-Construction システム学寄附講座（協調領域検討会）にて担当する「設計WG」の実施体制を強化するとともに、協調領域の範囲やその社会実装に向けた検討を行った。また、東京大学 i-Construction システム学寄附講座第Ⅱ期終了（9/30）に伴い成果報告書を取りまとめ、引き続き、第Ⅲ期（4年間）スタートに合わせて、設計プロセスにおけるデータ連携の改善に向け推進した。
- RCCM 自主学習システム専門委員会より要請を受け、更新学習テキスト、問題等を審議した（7/3）。
- 「第24回業務研究発表会」を企画・運営し、9月10日に発表者と審査員は発表会場にて、

聴講者はオンライン形式にて開催した（論文応募数84編、発表論文32編）。優秀者には、最優秀賞（1名）、優秀賞（3名）、特別賞（4名）を授与した。

- 未来塾対応WGの一環として、共通仕様書と歩掛改定要望について、国土交通省技術調査課と2回（7/30,8/29）の協議を経て、河川構造物の操作室や上屋の建築設計の扱い方提議、道路詳細設計(B)予備なしが(A)予備ありより安価である問題指摘、延長1km未満の道路予備設計の見積対応化、1業務当りの関係機関協議の歩掛改定、仮設構造物の任意仮設と指定仮設の注記追加等の指摘・要望事項を説明し、改定要望一覧表を提出した（9/5）。
- 日本道路協会が進めている電子図書（10月1日有料販売）に向けて、具体的な活用方法に関する意見交換会（6/5）と説明会（8/23）に参加し、意見交換を行った。
- ビジョン2025委員会において、統括技術委員会3技術委員会の18専門委員会から、今後、各専門分野において展開していくべき技術とそれを活用した問題解決の方向性を示した。
- 国総研・土研との意見交換会（12/10）に参画するとともに、統括技術委員会 協調領域検討WGにて推進している「東大 i-Construction システム学寄附講座〔協調領域検討〕」での取組内容を紹介した。
- 国総研 研究評価委員（第一部会）として、研究成果に対し質疑応答を踏まえ、評価・意見具申を行った（7/25,10/24の2回開催）。
- 国土交通省 国土技術研究会の審査委員として、国土交通省職員等の技術研究発表会の審査を行った（12/5,12/6の2日間開催）。

2. 次年度の活動について

- 7WG及び3技術委員会の横断的テーマの検討
- 技術部会指示事項の検討と技術部会への上程
- 国総研・土研との技術交流、意見交換会
- 白書・対外活動、未来塾WG等への参画、他
(統括技術委員会委員長 齋藤 哲郎)